

## 平成17年度 「知られて！買われる近江の野菜」販売コーナー設置事業の概要

### 1. 目的

「食卓から農場へ」県民の食卓を原点として、消費者の視点に立った生産・流通を進めるため、消費者の信頼に応えられる野菜産地の育成強化を推進するとともに、県民が県内野菜を知って、買ってもらえるよう、量販店でのPRを実施した。地場や地域の特色を兼ね備えた野菜を量販店等で生産者団体等が自ら販売することにより、県内野菜の消費の喚起を図り、量販店における地産地消体制の確立を目指すとともに、消費者ニーズである安全で安心な高付加価値・高品質の野菜産地の振興を図ることを目的とした。

### 2. 事業実施主体 全農滋賀県本部

### 3. 事業の概要

- (1)設置場所 県内量販店
- (2)実施時期 11月上旬～12月上旬
- (3)実施期間 実施期間を4週間とし、長期的にコーナーを開設することにより、常設化に向けた取り組みとし、消費者へのアピールを強めた。
- (4)内容 実施に当たり、事前に量販店バイヤー、市場関係者、JA、全農滋賀県本部、県等関係者が出荷調整会議を開催し、販売コーナーに出荷する品目、数量、市場仕切価格、産地の調整等を事前に行った。そして、県内野菜の店を一ヶ所に集めて販売およびスタッフによる店頭宣伝、ニーズ把握のためのアンケート調査を実施した。

### 4. アンケート結果から

野菜を買うときに気を付けることは何ですか。

若年層は、価格重視の傾向があるが、年代が上がるほど「新鮮さ」の意識が高まり、50代以上では、「新鮮さ」と「安全・安心」の割合が8割を越えており、価格適及より品質重視の傾向が如実に現れた。

「その他」の意見として、「季節感、旬のこだわり」があった。

食品の表示問題や安全性について話題になっていますが、野菜を買うときに何を基準に「安全・安心」と判断しますか。

大半は、「産地」、「有機等の表示」を意識していることがわかった。意外に「栽培者の名前」が少なかった。

「その他」の意見として「見た目判断」「栽培者の住所」「トレーサビリティ」があった。

野菜を買うときに知りたい情報は何か。

「収穫日」、「肥料農薬の種類」、「産地情報」の順であった。「栽培者」は全体の5%とあまり意識していないようである。

野菜を買うときに滋賀県産野菜があればその野菜を買いますか。その理由は何ですか。

ほとんどの人が買うと回答している。どの年代とも「新鮮さ」が最も多いが、年代が上がるにつれて「安全・安心感」の割合が多くなっている。